

「イクメンプロジェクト」の概要

平成22年6月17日

厚生労働省

• 「イクメンプロジェクト」とは

- 育児を積極的にする男性「イクメン」を周知・広報するプロジェクト。
- ホームページを開設し、「イクメン宣言」や「イクメンサポーター宣言」など広く国民の参加を募ることや、シンポジウム等のイベントを開催することにより、多くの人を巻き込み、社会的な気運の醸成を図る。

• 「イクメンプロジェクト」の背景

- 育児休業を取得したい、と希望する男性は約3割いるのに対し、実際の取得率は1.23%となっており、男性の希望と現実が乖離。
- 我が国の男性の家事・育児関連時間は、他の先進国と比べても最低水準。そのことが、子どもを持つことや妻の就業継続に対して悪影響を及ぼしている。

- 「イクメンプロジェクト」のねらい

- 男性が育児をすることについての社会的気運を高め、育児休業を取りたい、育児にもっと関わりたい、という男性の希望をかなえる。
- 遅れている男性の育児参加を進め、夫婦で協力して育児をする環境を作ることで、出生率の向上と女性の就業率向上を目指す。

- 数値目標

- 男性の育児休業取得率
1.23%(2008年度)→10%(2017年度)→13%(2020年度)
- 第1子出産前後の女性の継続就業率
38%(2005年)→55%(2017年)

1 「イクメンプロジェクト推進チーム」の結成

- ・「イクメンプロジェクト」を推進するため、有識者等による「イクメンプロジェクト推進チーム」を結成。
- ・推進チームでは、「イクメンプロジェクト」の内容を検討し、推進・広報する。また、「イクメンの星」(後述)の選考を行う。

2 「イクメンプロジェクト」ホームページの開設

① イクメン宣言

- ・個人(イクメン本人)が、「イクメン宣言」をし、サイト上で「イクメン登録」ができる仕組みを作る。

② イクメンサポーター宣言

- ・イクメン以外の個人(妻、地域住民、有識者、著名人等)、団体(企業、労働組合、NPO、自治体等)が、「イクメンサポーター宣言」ができる仕組みを作る。イクメンサポーターとなった団体は、それぞれの取り組みを進めるとともに、サイト上で取り組みを紹介する。

③ 「イクメンの星」(今月のイクメン)の掲載

- ・「イクメン宣言」を行った方を対象に、「イクメンの星」を公募する。推進チームで選考を行い、毎月1名を「イクメンの星」として選定し、サイト上で紹介する。

④ 育休・育児体験談の掲載

- ・男性の育休・育児体験談や、その妻の体験談を募集し、サイト上に掲載する。

⑤ 企業の事例集やパンフレット等関係資料の掲載

- ・企業の人事担当者等が参考にできるよう、男性の育休支援や職場のワーク・ライフ・バランスに関する具体的な取り組み事例を紹介する。

3 シンポジウムの開催

- ・他メディア等とタイアップし、イクメンプロジェクトのシンポジウムを開催する。

4 広報資料の作成

- ・ポスターやハンドブック、サイトに掲載した内容を中心とする広報資料を作成する。

プロジェクトの内容を検討し、推進力となるチームの設置。

推進チーム メンバー



あんどう てつや

■安藤哲也氏
NPO法人ファザーリング・ジャパン
代表理事 ※座長

多くの父親の育児に関する知見を有する。NPO法人の代表として、豊富なイクメンネットワークを持つ。47歳。3児の父。



あつみ なおき

■渥美由喜氏
(株)東レ経営研究所研究部長

企業・自治体の雇用管理に詳しい。著書に「少子化克服への最終処方箋」。4歳、0歳の2児の育児休業を取得。17年前から週末毎に、地域で子ども会を主催し、1700人の子どもたちと出会う。42歳。



おか やすみち

■岡康道氏
タグボート代表

日本を代表するクリエイティブ・ディレクターの一人。NTTドコモ、富士フイルム、大和ハウス、資生堂など、現在、20社のクライアントを抱える。



こまざき ひろき

■駒崎弘樹氏
NPO法人フローレンス代表

病児保育を行うNPO代表。社会起業家として影響力を持つ。9月中旬に第一子が誕生予定で、育児のために休業することをブログで宣言。30歳。



こむろ よしえ

■小室淑恵氏
(株)ワーク・ライフバランス代表取締役社長

自社で企業向けコンサルティングを行うと同時に、「ワーク・ライフバランスコンサルタント養成講座」や「休業復帰支援プログラムarmo (アルモ)」を開発。著書に『6時に帰るチーム術』など。著書多数。34歳、1児の母。



さとう ひろき

■佐藤博樹氏
東京大学教授

ワーク・ライフ・バランスと企業経営・人材活用の関係に関して実証的研究を行う。内閣府・ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議委員など政府の委員を多く務める。『男性の育児休業』（共著、中公新書）など。56歳。



やまだ まさと

■山田正人氏
横浜市副市長

経済産業省課長補佐時代に育児休業を取得。著書に「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」。42歳。3児の父。

トップページのサイト構成イメージ

ポイント①

メインビジュアルはポスター案と同様のイメージで統一感を持たせる。

ポイント②

当サイトで募集する「イクメン登録」、「イクメン宣言／育休・育児体験談」の閲覧ページへのリンク。ページを訪れた父親の皆様へ「イクメン宣言」をしている他の父親たちのコメントを読ませることで、イクメンの啓発を図る。

ポイント③

企業の事例や育児休業法の内容等について詳細情報を掲載。ワークライフバランスや育児休業制度について興味を持つユーザーに有益な情報を掲載。

ポイント④

地方公共団体、NPO法人などのイベント情報の新着情報欄を設置。当サイトの新着情報であるTOPICSとは分け、「イクメンサポーターの活動・イベント情報」として全国の活動の広がりを促す。

ポイント⑤

イクメン登録、イクメンサポーター登録を促進するため、登録ボタンをページ上部に目立つように入れる。

ポイント⑥

イクメンプロジェクト公式ツイッターを用意。イクメンプロジェクトサイト内でも閲覧できる仕組みづくりを行う。

「イクメンフォーラム2010」(仮称) の開催

雑誌「FQ」とタイアップし、イクメンに興味を持っている若い父親層あるいは未婚男性に対して意識啓発を行う。

【実施概要】

- ・開催日程：平成22年9月24日(金)または25日(土)
- ・開催場所：東京ビックサイト
- ・対 象：20代～30代のイクメンとその妻、プレパパ・プレママ、企業・自治体等の団体



ダイバーシティ・プロジェクトとの タイアップによるシンポジウムの開催

朝日新聞社が推進しているダイバーシティへの取り組み、「ダイバーシティ・プロジェクト」とタイアップし、働く女性を中心とした男性の育児参加に関心の高い層へアプローチ。

【実施概要】

- ・開催日程：平成22年11月14日(日)
- ・開催場所：東京ミッドタウン
- ・対 象：20～40代のイクメンとその妻、企業・自治体等の団体



「イクメンプロジェクト」ポスター

厚生労働省

育てる男が、家族を変える。社会が動く。

育
MEN
イクメンプロジェクト

育児を楽しむ男たちが社会へ発信！新プロジェクト、始動
イクメンは、子育てを楽しむ、自分自身も成長する男の姿、
家族の未来を、社会を大きく変えていくプロジェクトに、あなたも参加しませんか？

<http://www.ikumen-project.jp>

制度改正により、男性の育児休業が取りやすくなりました。
※休業で給与は減りますが、1歳以下の子供が対象です。
※休業の開始や中止が難しい場合は、再就業支援も受けられます。
※育児休業が就業先で（無）で実施されています。

「父親のワーク・ライフ・バランス」ハンドブック

ハンドブック

仕事と育児を両立しやすい職場環境の整備や、男性が育児休業を取得するための手続きやノウハウなど、ワーク・ライフ・バランスの実現に役立つ情報を分かりやすく紹介したハンドブックを50,000部程度作成し、シンポジウムでの配布や、経済団体、労働組合、地方公共団体等を通し配布を行う。常時身近においていただけるツールとして理解促進を図る。

WEBサイト上に掲載

ホームページ上からPDF版のダウンロードを実施。設置場所が分からない方のためにホームページ上でも紹介し、父親のワーク・ライフ・バランスの啓発を行う。

父親のワーク・ライフ・バランス
W L B
HAND BOOK
応援します！仕事と子育て両立パパ

育てる男が、家族を変える。社会が動く。

厚生労働省

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



MEN

イクメンプロジェクト

イクメンとは、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男のこと。

プロジェクトのロゴマークは、子育てする父が家族のあり方を変え、自分自身も成長し、やがて社会の成長にもつながっていくというプロジェクトの意義を、「育」の漢字で象徴的に表現しています。

同時に、まだ認知度の低い「イクメン」の意味をひと目で訴求する役割も持ちます。

このロゴマークに「育てる男が、家族を変える。社会が動く」というスローガンを掲げ、プロジェクトの使命をストレートに訴求。制度改正を起点とした一大ムーブメントの誕生を力強くアピールします。